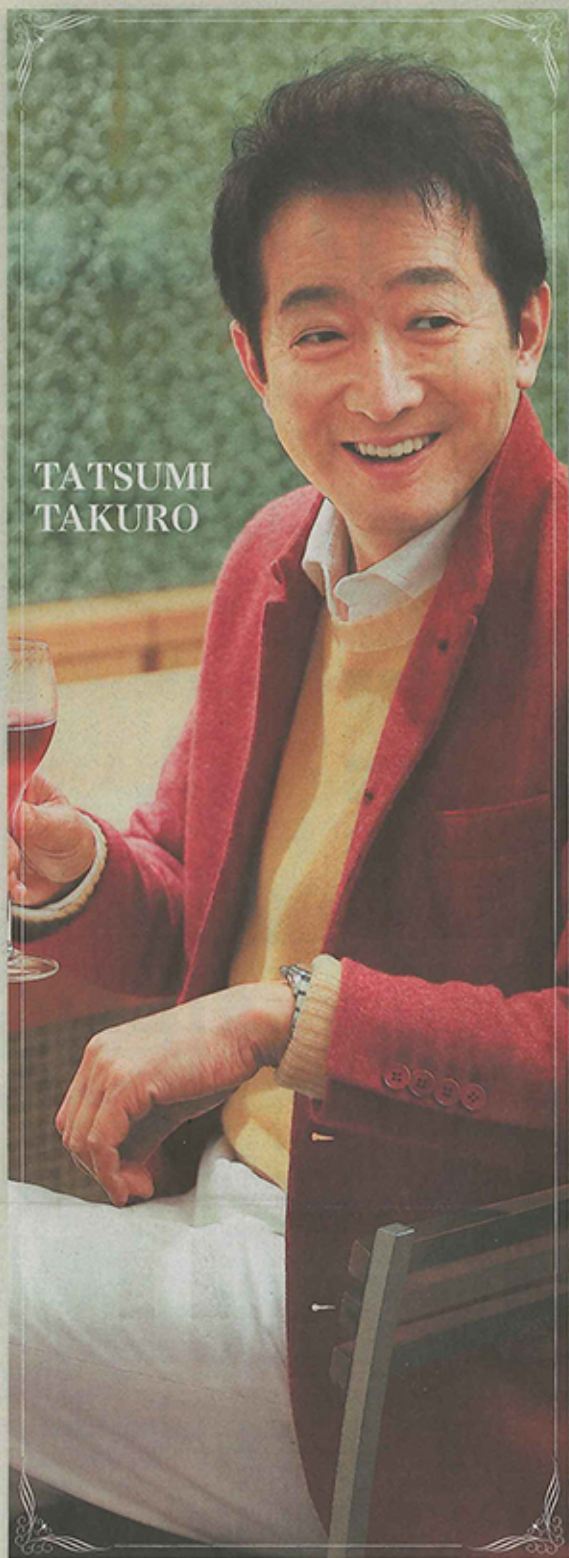


# 時を刻む— 人生を刻む—

【俳優 辰巳 琢郎さん】

知的かつダンディなキャラクターで幅広い年代のファンを持つ辰巳琢郎さん。私生活においては多彩な趣味を持ち、それぞれのシーンごとに腕時計を変えて楽しんでいます。そんな辰巳さんの腕時計にまつわる思い出や、こだわりなどについてお話をお聞きしました。



TATSUMI TAKURO

## 腕時計に込められた 義父の思いを受け継いだ

腕時計を意識したのは、小学校1年生のころ。当時、人気だったアニメの主人公が腕時計型の端末を使って時間を止めたり、空飛ぶ車を呼び出したりするのを夢中になって見ていました。その腕時計のおもちゃも持っていたんじゃないかな。あれが腕時計に憧れた最初の出来事でした。

中学校受験をしました。腕時計は必需品、父親のお下がりの黒革のベルトで、リュウズを巻いてゼンマイを動かす方式のものでした。そういう機械仕掛けの仕組みがとても好きで、ゼンマイという駆動力にはいまだに興味があります。若い頃は、面白がつて時計のメカニクスが選んで見える腕時計に憧れて、安価なものしか買えませんでした。それなりに楽しんでいた時代でした。

そんなころに、特別な贈りものをしていただく機会がありました。まだ結婚する前に妻の父親から、昔愛用していた高級時計を譲り受けたいんです。20代の半ばだった僕には、とて

も手が出るようなものではありませんでした。無口な義父でしたが、「これぐらいのもん、つけとけ」と、そのアンティーク時計を渡してくれました。どうしりと重くて、でもその重さがまた良かった。洋服でも時計でも身の丈以上のものを持つことで、それが励みになるというようなメッセージを、腕時計を通じて僕に伝えたかったのだと思います。義父の生き様を刻んできた大切な腕時計をプレゼントされたのは嬉しかったけれど、それ以上に人前の男と認められたことに感激しました。

自分も将来子どもに引き継ぐことを前提に、いい腕時計をひとつずつ手に入れなければと思っています。

## 腕時計の一つひとつに 思い出があります

腕時計のコレクションをしているというほどではありませんが、30個以上は持っていると思います。種類は、自動巻き、手巻き、両方の機能を持つ、パワーリザーブ、電池式と色々ありますが大半は高いものはありません。でも、海外旅行で買ったもの、人からいただいたもの、一つと

つの腕時計には思い出があります。今の腕時計は正確に時を刻みますが、昔はリュウズを巻き上げることが忘れて止まってしまうことがありました。若いときはそれを褒め坊の理由にしたこともあって、今となっては懐かしい思い出です。アナログの腕時計には人間味があるというが、手がかかる分、心が通うような部分があると実感しています。そういう意味では、手巻きのゼンマイ式が自分には向いているのかな。完璧なものより、少しくらい危うい感じの腕時計が好きなんです。もちろん、仕事をすすめるうえでは遅刻が許されませんが、日ごろ使う時計はきちんと時刻を合わせていません。

20年以上前になりますが、全国を巡るテレビ番組のリポーターをしていた、日本の良さを感じたいと感じて、懐かしい郷土料理がある、素晴らしい風景がある、お酒も美味い、しかも、日本には世界に誇る高度な技術もあることを実感してからは、国産品にこだわることが多くなりました。腕時計も海外ブランドだけじゃなく国産のものもいくつか持っていて、その日のファッションや気分にあわせて使っています。

細工の職人の技術と時計の技術が合体した、こういう背景を知ると、ますます時計が楽しくなってきました。スイスの首都ベルンの郊外には、ラッシュード・フォン・ルロックという時計産業の街があって、そこも行ってみたい場所のひとつ。ヨーロッパでは、時計にまつわる話をよく聞きます。からくり時計が街のシンボルになっている。日時計の花壇があったり、旅をしながら時計を感じるのが、楽しみのひとつになっています。

日本でも時計店へはよく行きます。今は便利な購入方法がありますが、僕は、実物を見て店の人と対話をして納得しないと買わないです。しっかりとした商品知識を持ったプロがいる時計店を選びたい。代々その土地で営業してきた歴史のある時計店ではやはり信頼感があります。故障しても安心して修理を任せられることも大切ですね。男性の場合、宝石はほとんど使いませんから腕時計ぐらい少しいたいくらいでもいいのでは。でも品位は大切です。安く買えればいいのではなく、いい腕時計を長く大切に使いたいと思っています。

(続)



## 時計を感じながら 旅をするのが自分流

ヨーロッパを中心に海外を旅することが多く、観光しながらよく現地の時計店を訪れます。時計を工芸品として見るのも好きです。歴史をひも解くと興味深いこともわかります。たとえば、スイスにはなぜ高級時計の国になったのか、それは16世紀の宗教改革にまでさかのぼります。迫害から逃げてフランスからジュネーブへ行った新教徒のなかには時計職人も多く、もたらがいた宝飾



たつみ たくろう 1954年京都府立文学部卒業。知性・品性・遊び心と三拍子そろった俳優として、幅広い分野で活躍。日本ソムリエ協会名誉ソムリエ。他にも数々のワイン・熟士号を持ち、自身が企画したワイン番組である「辰巳琢郎の葡萄酒家」(BSジャパン)は人気。長年番組に出演している。